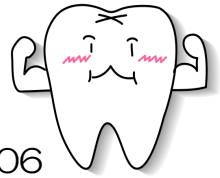


はは歯クラブだより



NO. 106

こんにちは！  医療法人 ゆきなり小児・矯正歯科です。

毎日新聞（2015年10月22日）に掲載された記事です。

受動喫煙：3歳までに子どもの虫歯2倍 家族の煙で

京都大のチーム 7万人超のデータ解析

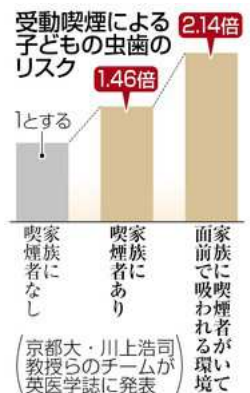
家族の吸うたばこの煙にさらされた子どもは、家族に喫煙者がいない子どもに比べて、3歳までに虫歯になる可能性が最大2倍になったとの研究結果を、京都大の川上浩司教授と田中司朗准教授らのチームが22日、英医学誌BMJに発表した。チームは、神戸市で2004～10年に生まれた7万6920人のデータを解析。生後4カ月での受動喫煙の状況と、3歳時点で1本以上の虫歯や歯の欠損、治療歴があるかどうかを調べた。その結果、家族に喫煙者がいる子は全体の5

5.3%おり、家族に喫煙者がいない子に比べて虫歯になる可能性が1.46倍になった。特に、面前で吸われる環境にあった子では2.14倍に高まったという。これまでの研究では、受動喫煙によって唾液の成分が変化し、虫歯の原因菌が集まって虫歯ができやすくなる可能性が示されている。川上教授は

「子どもの健康な発育のため、大人は生活習慣に十分気を付けるべきだ」と話している。



以前にも書きましたが、子どもの歯肉メラニン色素沈着（歯ぐきの黒ずみ）と親の喫煙（受動喫煙）との関係も確認されています。



詳しくは、ホームページをご覧ください。「ゆきなり」で検索すると簡単です。

今までの「はは歯クラブだより」をホームページに掲載しています。

〈文責：日本小児歯科学会認定小児歯科専門医 行成哲弘〉